

2026年（令和八年） 2月13日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週(2月5日～11日)の国際石油市場は、引き続き、イランと米国の緊張関係を中心に展開、緊張激化で値上がり、緩和で値下がる推移を示し、全体としてほぼ横ばいの水準で推移した。ただ、米国内景気の停滞懸念、需給緩和懸念が軟化要因となった。

NYのWTI原油先物市場は、5日に反落の63.29ドルで始まったが、6日、週明け9日と続伸し64.36ドル、10日は反落の64.63ドルで終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場(4月渡し)も、前週(1月29日～2月4日)は60.30～67.10ドルの範囲で推移したが、当週は、2月5日67.10ドル、6日67.90ドル、9日66.90ドル、10日68.20ドル、11日休場だった。

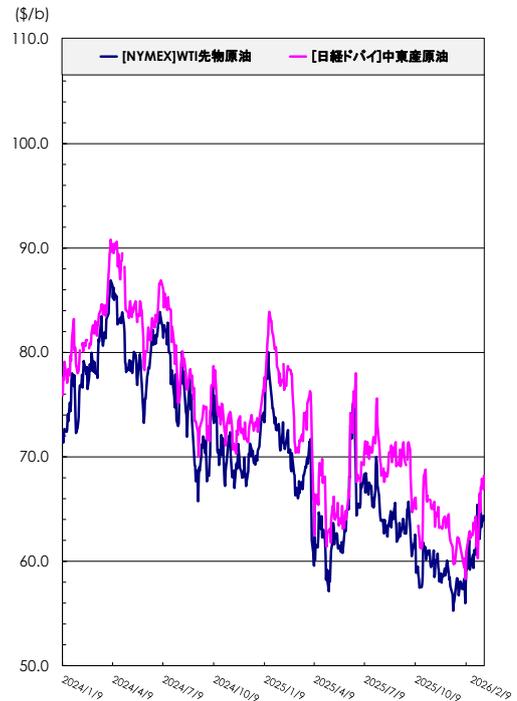
対ドル為替レート(TTM)は、前週(1月29日～2月4日)153.15～156.07円の範囲で推移したが、当週は、2月5日156.85円、6日156.82円、2月9日156.96円、10日156.17円、11日休場だった。

財務省が2月6日に発表した貿易東経(速報・旬間)によると、1月中旬の原油輸入平均CIF価格は64,802円/KLで前旬比2,502円/KL安、ドル建てでは65.84ル/Bで前旬比2.66ドル/B安、為替レートは1ドル/158.485円。

そのような中で、2月9日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円安、軽油も同0.1円安、灯油は同1円安(18リットルベース)だった。ガソリンの全国平均価格は155.5円だった。

ガソリンの補助金は、12月31日、旧暫定税率の廃止と同時に廃止された。引き続き、軽油は17.1円、灯油・重油は5.0円の補助金が支給されている。

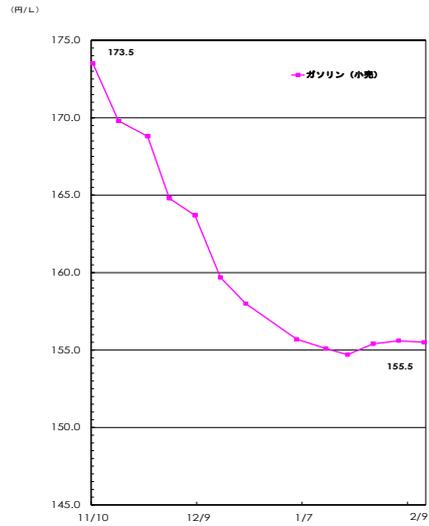
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	2/1 ~ 2/7	2,959 ▲ 51	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	85.5 ▲ 1.5	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	2/7	10,077 ▲ 168	▼ -
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	2/10	66.90 ▲ 0.40	▼ -10.5
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	2/9	64.36 ▲ 2.22	▼ -8.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	1月中旬	65.84 ▼ -2.66	▼ -10.73
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	64,802 ▼ -2,502	▼ -8,625
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	156.48 ▼ -0.27	▼ -4.02
	外国為替TTSLレート (¥/\$)	2/10	157.96 ▼ -1.67	▼ -5.00



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	在庫	2/7	1,624 ▼ -72	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 2/3 ~ 2/9	83.4 ▲ 0.4	▼ -2.6
価格	(TOCOM/中部)	2/9	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/9	155.5 ▼ -0.1	▼ -29.0

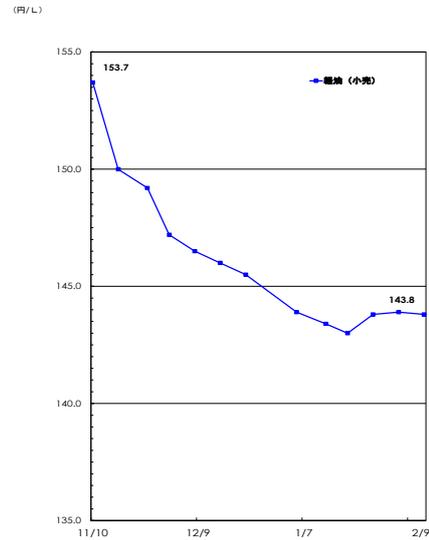
※先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

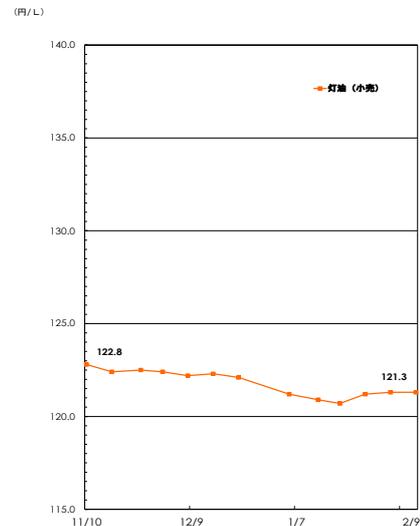
軽油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	2/7	1,455 ▼ -80	▲ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 2/3 ~ 2/9	73.0 ▲ 0.8	▼ -15.2
価格	(TOCOM/中部)	2/9	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/9	143.8 ▼ -0.1	▼ -20.4

※先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	2/7	1,633 ▼ -171	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 2/3 ~ 2/9	83.0 ➡ 0.0	▼ -5.0
価格	(TOCOM/中部)	2/9	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	2/9	121.3 ➡ 0.0	▼ -5.5



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（1月29日～2月4日）のNYMEX・WTI先物市場は、62.14～65.42ドルの範囲で推移した。

当週2月5日は、米国とイランの核開発問題をめぐる対立が高まる中、オマーンで協議されることになり、緊張感は薄らいだ。また、この日発表の新規失業手当申請件数が、市場予想を上待ったこと、高値に伴う利益確定売りも、値下がりに拍車をかけ、反落した。3月物終値は前日比1.85ドル安の63.29ドル。

週末6日は、この日、オマーンで米国とイランは核開発問題をめぐり高官による間接協議を行ったが、進展は見られず、再び緊張は高まり、また、カザフスタンのティンギス油田からのロシア経由の2月の輸出量は大幅に減少するとの見通しもたかまり、反発した。3月物終値は同0.26ドル高の63.55ドル。

週明け9日は、米国とイランの交渉は継続されることとなったものの、依然として、軍事衝突を含め、緊張は継続しており、続伸した。また、欧州連合（EU）のフォンデアライアン委員長が、対露追加経済制裁の検討を発言したこ

とも値上がり要因となった。直近の3月物終値は0.86ドル高の64.36ドル。

10日は、前日からの米国とイラン緊張の高まり、対露経済制裁強化への警戒感もあり、買いで始まったものの、米国景気の停滞懸念、最近の高値を反映した利益確定売りが強まり、3営業日ぶりに反落した。3月物終値は0.40ドル安の63.96ドル。

11日は、米国が、対イラン交渉圧力を高めるために、イラン原油輸送のタンカー拿捕や2隻目の空母打撃群の派遣を検討中であるとの報道で、両国間の緊張が高まり、反発した。ただ、この日発表のOPEC月報が需要見通しを下方修正したこと、米国内の石油在庫週報で原油が予想を上回る積み増しであったこと、が、上値を抑えた。3月物終値は、0.67ドル高の64.63ドル。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局（EIA）が、2月11日に発表した、6日現在の米国在庫週報によれば、前週比で、原油在庫は前週比850万バレル増と大きな市場予想を大きく上回る積み増しで米国内需給の緩和懸念が強まった。また、ガソリン在庫も120万バレル増と積み増しだったが、中間留分在庫は280万バレル減と取り崩しとなった。

また、EIAによると、2月9日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比3.5セント高の1ガロン2.902ドル（120.9円/ℓ）と4週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格も、前週比0.7セント高の3.688ドル（153.7円/ℓ）と4週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、2月6日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比1基増の412基であった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2月1日～2月7日に休止したトッパー能力は12.8万バレル/日で、前週に対して0万バレル/日減少した（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は295.9万klと、前週に比べ5.1万kl増加。前年に対しては33.1万klの増加。トッパー稼働率は85.5%と前週に対して1.5ポイントの増加、前年に対しては9.6ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

2月7日時点の在庫は、前週に対してガソリン、ジェット、灯油、軽油、A重油は取り崩し、C重油は積み増しとなった。

ガソリンは162.4万kl、前週差7.2万kl減。前年に対しては11.8万kl少ない。

灯油は163.3万kl、前週差17.1万kl減。前年に対しては17.6万kl少ない。

軽油は145.5万kl、前週差7.9万kl減。前年に対しては3.2万kl多い。

A重油は71.4万kl、前週差1.9万kl減。前年に対しては3.7万kl少ない。

C重油は178.5万kl、前週差1.6万kl増。前年に対しては10.0万kl多い。

(単位：千KL)

	今週 (2/7)	前週 (1/31)	前週比
ガソリン	1,624	1,696	▼-72 (-4%)
ジェット燃料	639	728	▼-89 (-12%)
灯油	1,633	1,804	▼-171 (-9%)
軽油	1,455	1,535	▼-80 (-5%)
A重油	714	733	▼-19 (-3%)
C重油	1,785	1,769	▲16 (1%)
合計	7,850	8,265	▼-415 (-5.0%)

5 国内/元売会社製品卸価格

2月3日～9日のドル建て中東原油価格は前週比大きく値上がりし、為替レートも円安だったため、2月12日からの元売会社の卸建値は値上げされたものと見られる。

揮発油の補助金は、12月31日、旧暫定税率(現：当分の間税率)と同時に廃止となったが、他の補助金は、軽油が17.1円、灯油・重油が5円、ジェット燃料が4円で据え置きだった。

6 国内/製品小売価格

2月9日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の155.5円、軽油も同0.1円高の143.8円、灯油は18%ベースで同1円安の2,183(1%ベースでは同横ばいの121.3円)。ガソリンは3ぶりの値下がり、軽油も3週ぶりの値下がり、灯油も2週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは19府県、横ばいは6県、値下がり12都道府県だった。全国最安値は愛知県と宮城県の148.4円、その次は埼玉県の149.0円であった。他方、最高値は鹿児島県の164.5円。最も値上がりしたのは沖縄県(前週比1.3円高)、逆に、最

も値下がりしたのは和歌山県(同1.6円安)だった。

次回調査時(2/16)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (2/9)	前週 (2/2)	前週比	直近高値
レギュラー	155.5	155.6	▼-0.1	2023/9/4 2025/4/14
灯油	121.3	121.3	→ 0.0	08/8/11
軽油	143.8	143.9	▼-0.1	08/8/4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

小売価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2025第45号) の公表は、2/20 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘッドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX)WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。